

神奈川県内広域水道企業団 第6回新ビジョン検討委員会 議事録	
日 時	令和2年12月22日（火）14時00分～16時00分
開催場所	HOTEL THE KNOT YOKOHAMA 2階「TRINITY」
出席者	石井晴夫、長岡裕、鎌田素之、福田健一郎、森由美子、宮林正也、遠藤尚志、渡辺浩一、成田肇 ※敬称略 順不同
欠席者	なし
開催形態	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、出席者を限定
議題	<p>1 企業長挨拶 2 委員長挨拶 3 議事 議題1 新ビジョン（案）について 4 その他 　・ 今後の予定 　・ 委員挨拶 　・ 企業長挨拶</p>
議事	<p><u>1 企業長挨拶</u></p> <p>企業長の黒川でございます。本日は年末の大変お忙しい中、新ビジョン検討委員会にご出席を頂き、心より御礼申し上げます。</p> <p>本日の委員会も前回と同様に、新型コロナウイルス感染症拡大防止の措置、ソーシャルディスタンスをとらせていただいております。やりにくい面もあるうかと思いますが、何卒、ご理解のほどよろしくお願ひ申し上げます。</p> <p>さて、当委員会は今回で6回目を迎え、会議といたしましては最後の開催となります。</p> <p>これまで、石井委員長をはじめ、委員の皆様方からは、長期を見据え、企業団の将来像に始まり、その実現に向けた取組みの方向性に至るまで、様々なご意見を頂いてまいりました。</p> <p>今回の委員会では、これまでの検討経過を総括していただくとともに、新ビジョンの成案化に向け、最終的な内容の確認をお願いしたいと考えております。</p> <p>今後の予定でございますが、本日の審議結果を踏まえまして新ビジョンを成案化させて頂き、来年1月の議会に報告し、3月に公表してまいります。</p> <p>本日も限られた時間ではございますが、委員の皆様方におかれましては、忌憚のないご意見をいただけますよう、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。</p>

2 委員長挨拶

委員長を仰せつかっております。石井晴夫です。

皆様も御存じのとおり、政府の令和3年度予算案が昨日、閣議決定されました。予算規模は過去最大の106兆円にのぼり、中でも国土強靭化に関する予算が目玉になっています。水道に対しても様々な観点から手厚い予算措置がなされています。

政府においては、災害対策、持続可能な水道の実現に引き続き取り組んでいくという話があったと聞いています。

また、総務省が簡易水道の統合に関して、新たな地方財政措置の決定を発表しました。

厚生労働省は、これまで10年間にわたって簡易水道同士の統合又は簡易水道と上水道との統合を推進してきました。しかし、中には統合後に厳しい財政状況に陥る水道事業体も出てきました。その現状に対し、一定の基準を設け、基準をクリアした事業体には新たな地方財政措置を講じるというものです。このような財政措置により、統合を果たした水道事業体が救済されることを心より願っています。

また、令和2年度第3次補正予算案に関しても、予算規模は15兆円にのぼり、こちらも国土強靭化等が目玉となっています。このように、水道事業の重要性が謳われています。

このように大変タイムリーな中で、第6回新ビジョン検討委員会を迎えました。今回が最後の委員会になりますが、委員の皆様におきましては、今後ともご支援をいただきながら、様々な形で、企業団及び構成団体の水道施策が全国モデルとなるよう発信して頂きたいと考えています。

横浜市の水道料金改定につきましては、先日の市会で議決されたと聞いています。コロナ禍において、市民から理解を得る事や議会への対応など、非常に大変であったと思います、本当に疲れ様でした。厳しい状況にあっても、水道事業の強靭化の必要性を訴え、覚悟を持って英断を下されたことについて心から敬意を表します。

このような厳しい状況にある中で、私たちも横浜市の事例を含め、水道事業の重要性を訴えていきたいと考えています。

本日も格別なご支援をいただきながら、新ビジョンをまとめていきたいと思います。

3 議事

議題1 新ビジョン（案）について

事務局から資料の説明があった。

(質疑)

(福田委員)

実施計画（案）19ページ財政収支の見通しについて端的に伺います。今後、事業費及び減価償却費が増加する一方で、給水収益は減少していくことが見込まれています。長期を見通した財政上の課題として、収支均衡が困難とありますが、長期とはどの程度のスパンを想定していますか。

(平部理事)

企業団は、新ビジョン策定にあたり50年間の収支を試算しています。50年後の収支については、設定条件によって様々なパターンがありますが、令和8年度以降の次々期については、事業費が次期の2倍程度になる見込みですので、次期と同様の収支算定条件では、期中に資金がショートする可能性があると見込んでいます。

したがって、この対応について、事業費の平準化を含めて、構成団体と協議を行いたいと考えています。

(福田委員)

次々期における資金ショートの可能性は、非常に差し迫った話だと実感しました。総務省では、経営戦略の策定に当たって、30～50年の長期的視点に立ち、資金や料金のあり方を検討するよう地方公営企業に要請しています。新ビジョンの目標を達成していく上で、経営面や料金値上げの時期を見える化し、構成団体と議論されることを望みます。

(石井委員長)

福田委員のご発言のとおり、財政収支は50年スパンで見通す必要があります。水道事業は設計から供用開始まで時間がかかるため、できるだけ早く様々な収支のシミュレーションを行い、議論する必要があります。

(森委員)

千葉県のダムで渇水が生じ、更にコロナ禍で県市民の生活が大変な状況だという報道がありました。新ビジョンには、渇水対策について明記されていませんが、神奈川県ではどのような対策をとられているのでしょうか。

(佐藤技術部長)

森委員のご指摘のとおり、企業団の新ビジョンでは渇水に大きく触れていません。

県内では、構成団体が共同で開発してきた相模川水系の相模ダム、城山ダムを主力の水源としています。その後企業団が後発で、三保ダム(酒匂川水系)、宮ヶ瀬ダム(相模川水系)を開発しました。県全体としては、宮ヶ瀬ダムの完成をもって水源開発は終了し、潤沢な水源を保有している状況です。

最近の異常気象によって、宮ヶ瀬ダム完成以降も、渇水になりかけてきた事もありましたが、その度に企業団は構成団体と協力し、ダムの運用(貯水量の管理など)を工夫することで対応してきました。

そのため、企業団単独で渇水対策を行えるというものではなく、構成団体と協力して一体的なダムの運用を図り、また気象状況に合わせて適切に対応を図ることが渇水対策の基本となっています。

県内では、相模川水系を主力水源とし、酒匂川水系をバックアップの水源として利用していくという理解をしていただければと思います。

(森委員)

パブリックコメントには、小規模分散型水道システムによるコスト・災害リスクの軽減を望む意見や、飯泉地点での取水量の削減を求める意見がありました。これはいまご説明のあった2水系で水運用を行っている利点が水道利用者に伝わっていないからだと感じました。

県内の水運用の現状を上手く伝えられるよう、ぜひ解決していただきたいと思います。

2水系を運用しているという事は渇水対策の点において重要だという事は理解しました。

(佐藤技術部長)

パブリックコメントのご意見は、真摯に受け止めます。

企業団と構成団体は、2水系を上手に使い分けて、渇水や水質事故時に水系を切り替えることで、良質な原水を浄水しています。

これらは、日常の業務で当たり前のように行っていますが、県市民に上手く伝えられていないと思います。企業団もその点について認識しており、情報発信をしていますが、不十分なのかもしれません。

今後の広報活動では、県市民に企業団の役割や企業団と構成団体の水運用の仕組みなどをご理解いただけるように取組んでまいります。

(長岡委員)

ビジョン6ページに、水道施設の再構築による事業費等の削減効果が示されていますが、再構築によって削減できる額だけではなく、どの程度の事業費がどれだけ削減できるのかも合わせて示していただきたい。

また、図7の円柱グラフは再構築の結果、企業団への依存が増加することを示したものですが、県市民の中には、構成団体の自己水源が減少することで、安定給水に支障を来すのではないかという印象を持つ方がいるかもしれない。再構築の効果をしっかりと説明するとともに、再構築を行っても安定給水に支障がないことも丁寧に説明してください。

平成22年の「神奈川県内水道事業検討委員会」報告書では、上流取水を実現し、県内の水道システムを最適化することを目標に掲げましたが、検討は進みませんでした。そのような中で、企業団と構成団体がビジョンに最適な水道システムの実現に向けた取組みを明記したについて、大変評価しています。

企業団と構成団体が協力して最適な水道システムを実現することを期待しています。

(佐藤技術部長)

再構築の事業費等の削減効果は、構成団体のご協力やご理解もあり、ビジョンに踏み込んだ表現をすることができました。大変感謝しています。

委員のご指摘のように分母とあわせての記載については、構成団体と協議させていただきます。

(鎌田委員)

パブリックコメントでは、新ビジョン検討委員会の運営について、ご意見が多い印象でした。今後、水道施設の再構築では、企業団への依存が高くなっていくので、引き続き県市民からのご意見なども踏まえながら丁寧に進めていただきたい。

広報については、よく取り組まれている印象持っています。

8頁上段の「(2)施設の老朽化」のうち、パブリックコメントの意見を反映して修正した「施設の損傷」という表現は、「施設の破損」の方が適切な表現ではないでしょうか。ご検討いただいた結果、「施設の損傷」とされたのであれば、そのままで結構です。

(佐藤技術部長)

施設が「破損」する状況は浄水処理が継続できず構成団体が求める水量を供給できないような大事故を指すものと考えています。これまでにも施設事故の頻度としては少なく、事故が発生した場合においても、損傷程度であり、これを修復した上で、浄水処理を継続しております。したがって、「損傷」という表現にすることとしました。

(鎌田委員)

そういうことであれば、そのままで結構です。

(宮林委員)

県の意見として反映できるものは、反映していただきました。非常に良いビジョンになったと思います。

(渡辺委員)

新ビジョンの概要版にも、「水道施設の再構築」の効果（施設整備費、維持管理費、CO₂排出量等の削減効果）を掲載すべきと考えます。

もう一つ、これは感想です。企業団（用水供給事業）と川崎市（末端給水事業）では、「管路の耐震化」に関する見せ方に違いがあると感じました。

川崎市では、管路の「耐震化」に事業費、比重を置いた説明をしています。一方、企業団では、実施計画の18ページの施設整備費の内訳を示したグラフを見ると、耐震化については浄水場などの基幹施設が示されていますが、管路の「耐震化」にどの程度の事業費がかかるのかは示されていません。

管路に関しては、グラフの下の説明文のとおり、既設管路の「更新」についてのみ記載がありますが、これは、企業団の管路は耐震化が完了しているため、老朽した管路の更新に比重を置いた説明になっていると理解してよろしいですか。

(佐藤技術部長)

そのとおりです。企業団における管路の耐震適合率は100%です。耐震化を図らなければいけない管路はありませんので、まずは管路更新するための連絡管を整備した上で、老朽化した管路の更新を行います。

(成田委員)

新ビジョンをまとめる作業は大変だったと思います。内容についての意見はありません。新ビジョンの作成に若手世代が関わったことは、継承などの面から見ても意義があったと思います。

また、このような大きな計画を作成する機会は滅多に無いため、良い経験になったのではないでしょうか。ご苦労様でした。

(遠藤委員)

横浜市会の議員に対して新ビジョンの説明を行った際に、「構成団体の浄水場を廃止し、更新しない代わりに企業団の浄水場を増強したら、結局同じではないか」というご意見を頂きました。

ご意見を踏まえると、7ページの「課題」の表現についても工夫された方が良いと考えられますので、検討いただけないでしょうか。

(佐藤技術部長)

遠藤委員のご意見は理解しました。新ビジョンをまとめる中で、内容をできるだけシンプルな表現にしたいという想いがありました。表現については検討させていただきます。

(福田委員)

これまでの意見にご対応いただき、良い新ビジョンが出来上がったと思います。先ほどは経営基盤のうち、財政面についてコメントさせていただきましたので、経営基盤のもう一つの柱である人材についてコメントさせていただきます。

事業は人が支えています。しかしながら新ビジョンでは、施設整備費の増加が見込まれる中で、技術系の若手層が不足していることが明確に示されています。今後、様々な施設整備手法を採用していくことになる

と思いますが、どの手法を採用するにせよ、企業団のプロフェッショナルな職員の方々が施設整備事業を進めていくにあたっての中核となることに変わりはありませんので、ぜひ人材の確保・育成に力を入れてほしいと思います。

(大江総務部長)

新ビジョンで水道施設の再構築を掲げましたので、これを着実に進めしていくことが企業団の責任であり、人材・財源の確保、業務改善などについても積極的に取り組み、より効率的な組織運営を行っていきます。

人材の確保面では、技術系の採用が厳しいと感じていますので、構成団体と人材の交流等も図っていきたいと考えております。

(石井委員長)

他にないようですので、新ビジョン（案）については、委員会としての確認を終了といたします。本日のご意見を踏まえた修正については、委員長に一任いただきたいと思います。

4 その他

今後の予定

事務局より今後の予定について説明があった。

- ・1月議会に委員会の意見を踏まえた新ビジョンを提示
- ・新ビジョンは、パブリックコメントの結果と併せて3月に公表

委員挨拶

委員会が最終回であるため、各委員から、これまでの審議経過を踏まえた振り返りなどのご発言をいただいた。

(鎌田委員)

非常に良いビジョンができたと思っています。

30年後の将来像として浄水場の廃止等が明確に記載され、神奈川の水道も大きく変わっていくと感じています。

ビジョンの作成過程で、かなり多くの職員意見を取り入れている点がとても印象的でした。これからも、より良い職場環境で安定供給を継続して頂きたいと思います。

企業団には、安全な水を安定的に供給するという使命があります。これからも、企業団がより効率的な水道事業を行っていく中で関わらせて

いただけたと幸いです。ありがとうございました。

(福田委員)

皆様、お疲れ様でした。ビジョンの作成に参加し、5事業者の今後の施設整備の方向性が具体的になり、財政面でも大きな転換点を迎えると思いました。

そうした中で企業団の新ビジョンの作成に関わることができ、非常に勉強になりました。企業団と構成団体の事業が円滑に進むことを願っております。ありがとうございました。

(森委員)

新ビジョン検討委員会には途中から参加となりましたが、企業団という仕組みについてよく勉強させていただきました。

今後、構成団体の人口が減少し、給水収益も減少していく中で、水道施設の再構築がしっかりとビジョンに明記されました。

新ビジョンを実行していく上で、人材確保や職場環境の改善など課題はあると思いますが、その解決に向けた取組みも明記され、明るい兆を感じています。今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。

(長岡委員)

今回の新ビジョンを高く評価しています。特に施設のダウンサイジングや上流取水など、最適な水道システムの実現に向けて用水供給事業者と末端供給事業者が協力してビジョン及び実施計画を作り上げたことは、日本水道界における緩やかな広域化の参考とすべき事例だと思います。ぜひ全国的にも発信していただきたい。

特に水利権の整理については、難しい課題となりますので、5事業者で連携・協力して立ち向かっていただき、より良い水道システムの構築にむけて努力していただきたいと思います。今後の進捗に期待しています。

(宮林委員)

石井委員長をはじめ委員の皆様、それから事務局の皆様、長い間、新ビジョンの作成にご尽力いただきました。私も微力ながら新ビジョンの作成に携わり、大変勉強になりました。ありがとうございました。

5事業者の取組みは、平成18年度の「今後の水道事業のあり方を考える懇話会」まで遡り、そこから平成22年の「神奈川県内水道事業検討委員会」報告書をまとめました。その後、紆余曲折し、現在では国や

県の河川管理者を交えた検討を行うなど、最適な水道システムの実現に向けた取組みは加速しています。

その中で企業団の新ビジョンは、今後の取組みを示す重要な設計図となりました。

最適な水道システムの実現に向けて、5事業者が協力し、我々も広域連携の一端として努力していきたいと思います。これまで、ありがとうございました。

(遠藤委員)

委員の皆様、企業団の皆様お疲れ様でした。県内水道の歴史は、とりわけ昭和の時代は拡張の連續でしたが、平成に入りバブル崩壊以降は給水量が減少の一途を辿っています。

こうした中で安定した水道事業を経営するためには、効率化、施設のダウンサイ징が必須になります。

これまで各事業体は、必要な予備能力を自前で確保した上で、ダウンサイ징を行ってきました。横浜市で言うと鶴ヶ峰浄水場の廃止がこれにあたります。

これがダウンサイ징の第一段階だとすれば、第二段階は近隣の事業体間で緊急時の応援送水を行えるようにすることです。これにより、一步進んだダウンサイ징が可能となります。

この実現のためには、企業団が要になります。そのダウンサイ징の考え方方が記載されているのが、今回の新ビジョンと実施計画になります。

5事業者でさらに効率化するとなれば、事業統合や水利権、施設、経営を一体化して末端給水まで担う形になり、それが最終形になると考えられますが、これは相当先の話になると思います。

まずは、新ビジョンに描かれている水道施設の再構築を、5事業者で協力関係を深めていきながら、前進させたいと改めて思いました。

ビジョンの検討委員になったことで、5事業者の水道がどこに向かつたらよいかを考える良い機会となりました。ありがとうございました。

(渡辺委員)

企業団の新ビジョンの作成に携わらせていただき、ありがとうございました。石井委員長をはじめ、委員の皆様お疲れ様でした。

新ビジョンは、かなり踏み込んだ内容にもなっており、非常に良いものになったと思います。

特に、新ビジョンのサブタイトル「最適な水道システムの実現に向け

て」は、企業団の新ビジョン、実施計画が県内の広域化に繋がっていく将来を適切に表していると思います。

新ビジョンはまだ設計図で、これを実現させるためには大変な労力が必要です。川崎市では、拡張事業を経験した職員がいない中で、新たに施設の再構築を行ったことから大変な苦労を経験しました。今となっては、若い職員にとって良い経験になったと実感しています。

50年、100年に1度あるか無いかの機会に携わることができる職員は非常に幸運だと思います。

最適な水道システムの実現に向けて、川崎市も連携して取り組んでいきます。ありがとうございました。

(成田委員)

石井委員長をはじめ、委員の皆様お疲れ様でした。企業団におかれましても新ビジョンの策定ご苦労様でした。

新ビジョンでは、今後、5事業者全体の施設能力を縮小していくながら、企業団の浄水場を増強していくことになります。さらにその先も給水量は減少傾向を示していくので、企業団も増強の先には縮小に転じる時期が必ず来ると思っています。そこを見極めるためにも、若手の職員が新ビジョンの策定に積極的に関わったというのは、大きな意義があったと思っています。

事業を進めるのは人です。先端技術を導入しながら、様々な職種や年齢層で、バランスの取れたコンパクトな組織運営を行っていただきたいと思います。

これから工事が増加すると思いますが、発注方式も工夫しながら効率的に、5事業者が連携して進めていきたいと考えています。よろしくお願いいたします。

(石井委員長)

委員の皆様におかれましては、これまで2年間様々な検討、ご支援等を賜りありがとうございました。本当にお疲れ様でした。

また、企業団におかれましては、黒川企業長を筆頭に本当にお疲れ様でした。委員会の事前準備から事前説明、6回に亘る委員会の設営、その後の事後処理、次回に向けての様々な検討課題の抽出・対応という流れで長い間ご対応いただきました。今年はコロナ禍ということもあり、設営も大変ご苦労されましたが、コロナ禍にあっても事務局ではしっかりとご対応いただき心からお礼申し上げます。

全国的に改正水道法に基づく広域連携の取組みが進んでおります。先

ほど、長岡副委員長より、新ビジョンは緩やかな広域化のモデルで大変貴重な事業であると、お話をいただきました。本当にその通りだと思っております。

新ビジョン検討委員会は、神奈川県都市部にある4つの大規模水道事業体がそれぞれの経営を維持した上で、企業団を活用し、施設のダウンサイジングを行うことを背景に、いかに安心・安全で持続性のある強靭な水道を未来につなげることができるか、という最大のミッションを持って進めていただきました。

まだ全国的には、神奈川県のような、緩やかな広域化の事例はありません。委員の皆様におかれましては、様々な機会を通じ、この神奈川モデルをPRしていっていただきたいと思います。

I S Oには、「自己適合宣言」というものがあります。自分で発信することで力が入り、自信も付き、期待にも応えることができるというものです。是非PRしていただいて、神奈川モデルの実現に向けて取り組んでいただきたいと思います。

委員の皆様からお話があったように、個別利害を超えて、用水供給事業体、受水団体が同じ土俵で、同じビジョンを目指すという高レベルの議論は、神奈川県だからこそできたと心から思っています。

いま国内外では、様々な課題に直面しています。今回の政府の方針には、人口減少と自然災害にどうやって社会インフラを強靭化し立ち向かっていくか、日本の国力を強化しなければならないという政府のミッションが示されています。

新型コロナウイルス感染症拡大というのは、いま我々が直面している最大のリスクです。このリスクには、地球規模で対応するしかありません。

また、地球規模で考えれば、S D G s の目標にもある脱炭素社会の実現などもあります。

一方、国内では、デジタル化社会の実現があります。来年の中ごろにはデジタル庁が設置されるとのことです。

コロナ禍において、ハンドトゥハンド、フェイス・トゥ・フェイスに代替できるようなC P S、I o T、A Iなどを利用してできるだけ電子化、遠隔操作、無人化、A I等を使った最適化への迅速な対応がこれから課題です。

この課題は上水、下水、工水、河川管理、海岸管理など、全てに亘って共通しています。こうした大きな流れの中で神奈川県は、全ての条件を満たしています。

5 事業者の皆様が積極的にご協力くださり、全国の水道事業体をリード

ドするようなビジョンを策定することができました。

先ほど、ビジョンは設計図と例えられましたが、デザインはできつたりますので、これを具体化していただき、早期に実行に繋げていただきたいと思います。

令和8年からの不透明な財政収支については心配も残りますが、様々な角度で事務局と委員の皆様のご支援、ご協力をいただきながら、できるだけ課題を明らかにし、その課題を解決できるような取組みを進めていきたいと思います。

委員の皆様のご健勝とご発展、企業団と構成団体のご尽力に心から敬意を表し、委員長としてのお礼の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

企業長挨拶

(黒川企業長)

本日も様々な意見をいただき、有難うございました。

当委員会は、昨年の3月に第1回を開催し、以降、6回にわたり、ご審議を頂き、また、委員の方々には個別にも相談をさせて頂きました。

お忙しい中、お時間を割いて頂き、お力添えを頂きましたことに改めて厚く御礼申し上げます。

また、今年の3月以降は、猛威をふるう新型コロナウイルス感染症の影響により、本委員会の開催を延期させていただき、感染症防止対策にご協力を頂くなど大変ご迷惑をおかけしました。

この点も改めて、お詫びと御礼を申し上げたいと存じます。

さて、水道事業では、人口減少、水需要減少という、かつて経験のしたことのない大きな変革期を迎えていきます。

企業団におきましても、建設拡張の時代から維持管理の時代を経て、今や再構築の時代と新たな転換点を迎えています。今回ご審議頂いた新ビジョンは、まさに、このような状況の中での策定であり、課題も山積しております。

そうした中、有識者委員におかれましては、専門的な知識や経験を踏まえ、長期を見据え、構成団体水道事業者と一緒にになって、企業団のあるべき姿について考えていただいたところであります。改めて感謝申し上げます。

今回の新ビジョン策定の過程において、企業団と構成団体水道事業者が、お互いに個別利害を超えて、最適な水道システムの実現に向けて一体となって取り組んでいくことが確認されました。

また、企業団職員も全職員がこの策定に関わり、この新ビジョンを、一人ひとりがしっかりと受けとめてくれたものと確信しております。

新ビジョンは、策定したことがゴールではなく、まさに、スタートであり、これが実現できなければ、神奈川の水道は大変な事態になる訳でございます。

こうした危機感を持ち、構成団体水道事業者とともに一体となって、新ビジョン実現に向けて、取り組んでいく覚悟であります。

また、新ビジョンの取組みを着実に進めるため、仮称ですが、「新ビジョン評価委員会」を来年度以降に設置し、実施計画期間の節目ごとに各施策の進捗管理を行う予定でございます。

この新たな委員会を設置する際には、新ビジョンの検討にお力添えいただきました有識者委員の皆様にも是非お力添えをいただきたいと考えております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、委員の皆様のご健勝と、今後の益々のご活躍を祈念し、挨拶とさせていただきます。誠にありがとうございました。

—以上—